

科目名	哲学	
担当者	近藤 和敬 / KONDO, Kazunori	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	哲学入門の講義である。ヨーロッパの論理思想史の学習を通じて、西洋の歴史のなかでの学問的進展と哲学的な思想背景がどのように創造的に結びついてきたのかというものの理解を目指す。
	到達目標	西洋哲学の歴史と論理学の歴史の概略を理解すること。 西洋哲学と論理学の基礎的な考え方を理解すること。 西洋哲学と現実世界との関わり方について理解すること。
授業計画	(1) ガイダンスとイントロダクション (2) 論理学と哲学概論：古代ギリシアの科学と哲学 (3) パルメニデス、矛盾律と排中律 (4) ゼノン、否定と帰謬法 (5) ゼノン、帰謬法と論証の起源 (6) プラトン、イデア論と集合を使った分類 (7) プラトン、ディアレクティケーと階層構造 (8) アリストテレス、命題と真理条件 (9) アリストテレス、認識論と三段論法 (10) ストア派と命題論理 (11) ストア派と真理値計算 (12) 命題論理とトートロジー (13) アリストテレスとヒスパーヌス、量化論理（ここまでの小テストあり） (14) ラッセル、量子子の操作、様相論理 (15) まとめの小テスト	
自学自習	事前学習	小テストを受ける前に、それまでの授業を復習しておく必要があります。授業で用いるスライドのPDFを配布するので、それを読んでおくこと。
	事後学習	・授業でやったところを、スライドのPDFで復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	授業中に使用するパワーポイントのPDFを配布します。
	参考文献	山下正男『論理学史』岩波書店、1983年。 リチャード・フェフリー『形式論理学 その展望と限界』戸田山和久訳、産業図書1995年。 戸田山和久『論理学をつくる』名古屋大学出版会、2000年。
成績評価の基準と方法	基準	授業中の中間小テスト1回（40%）と期末小テスト一回（60%）で評価します。
	方法	中間小テスト、期末小テスト
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代の倫理	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代の倫理問題はさまざまであるが、本講義ではとくに「生命倫理」の問題に焦点を当てて検討する。最初にアメリカで「バイオエシックス」と呼ばれる学問が成立した事情とその思想的意義を解説し、その後で、具体的な諸問題を取り扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命倫理学」という学問分野について理解する。 ・現代における生命倫理の諸問題を認識する。 ・その諸問題について、自分の考えを表明できる。
授業計画	(1) 「生命倫理学」とは？ (2) 生命倫理学（バイオエシックス）の成立 (3) 生命倫理学の基本原則 (4) 尊厳死（1） (5) 尊厳死（2） (6) 安楽死 (7) 安楽死 (8) 人工妊娠中絶 (9) 生殖補助医療技術の諸問題（1） (10) 生殖補助医療技術の諸問題（2） (11) 出生前診断（1） (12) 出生前診断（2） (13) 脳死と臓器移植 (14) 脳死と臓器移植 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配付資料やビデオ教材に対する感想文等の提出を求めることがある。
使用教材・参考文献	使用教材	玉井 真理子・大谷 いくみ編『はじめて出会う生命倫理』有斐閣（ISBN978-4-641-12420-2）
	参考文献	中山愈編『現代の思想的課題』弘文堂（ISBN4-335-15041-5） 今井道夫『生命倫理学』産業図書（ISBN4-7828-0206-4）
成績評価の基準と方法	基準	総合的な評価で 60 点を獲得すること
	方法	期末試験（80%） 読書レポート（10%） 授業時間内の課題提出物（10%）
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	宗教文化論	
担当者	兼城 糸絵 / KANESHIRO, Itoe	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では、日本を含む東アジアや東南アジアを中心とした地域で営まれている多種多様な「宗教」について、具体的な事例をもとに紹介していく。そして、「宗教」に対する理解を深めるだけでなく、「宗教」を研究対象とする際に必要な知識の習得を目指していく。
	到達目標	1、東アジアを中心とした地域の宗教文化について理解を深め、「宗教」に関する基礎知識を得ることができる。 2、近代化やグローバル化といった社会的・歴史的ダイナミズムを踏まえながら、「宗教」をとらえる視点を養う。
授業計画	(1) オリエンテーション（講義の概要、評価方法に関する説明、および簡単なレクチャー） (2) 「宗教」とは何か？①—「宗教」という概念について (3) 「宗教」とは何か？②—「宗教」の始まりをめぐる議論について (4) アニミズム (5) 仏教 (6) キリスト教 (7) イスラーム (8) 中国人の宗教一道教とその周辺 (9) 生と死をめぐる習俗① (10) 生と死をめぐる習俗② (11) 生きること—人間と時間、儀礼 (12) 祝うこと —祝祭と社会秩序 (13) 呪うこと —呪術と近代 (14) 災害と「宗教」 (15) 現代社会と宗教	
自学自習	事前学習	参考書を通読しておくこと
	事後学習	ハンドアウトで提示した参考文献に目を通すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	櫻井義秀・三木英（編著）『よくわかる宗教社会学』2007 ミネルヴァ書房。ISBN:4623049965 その他適宜講義中に提示する。
成績評価の基準と方法	基準	毎時の講義で提示するキーワードについて理解し、「宗教」に対して自分なりの見解を示せた者を合格とする。
	方法	出席態度（50%）および読書レポート（50%）にもとづき評価する。詳細は初回の授業で説明する。
備考	講義の進捗により、内容を変更する時もある。なお、読書レポートの内容を成績評価の対象とする。指定文献については、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	人間らしさを考える	
担当者	◎木下 昌也 / 蒲地 賢一郎 / 松本 宏明 / 溝上 宏美	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では人間という動物を特徴づけると考えられるものを取り上げそれらの本質、普遍性について考える。本年度は、人間の本質的な行動でもある言語、基本的な社会集団としての家族、近代社会の普遍的概念としての人権概念、そして人間のライフサイクルについて取り上げる。
	到達目標	講義で取り上げた内容について自分自身のこれまでの考えや経験を重ね合わせて考察できる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 家族と人間① (3) 家族と人間② (4) 家族と人間③ (5) ことばとヒト① (6) ことばとヒト② (7) ことばとヒト③ (8) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－① (9) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－② (10) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－③ (11) 人間のライフサイクル① (12) 人間のライフサイクル② (13) 人間のライフサイクル③ (14) 人間のライフサイクル④ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと ・読書課題については第一回目の授業で説明する
	事後学習	・各テーマそれぞれで指示される課題に取り組むこと
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	授業中紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	各テーマでそれぞれ上記目標に到達すること
	方法	各テーマで出される課題及び最終課題（レポート又は筆記テスト）で評価する（各テーマ25%ずつ）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	東洋思想	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	儒家思想についての講義。孔子、孟子、荀子を探り上げ、儒家の基本的特徴と、三者の差異及びその原因について講じる。
	到達目標	儒家思想の基本的特徴を理解する。 思想を体系的に把握する方法を学ぶ。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 封建制の構造と弱点 (3) 孔子の生涯と思想 (4) 孟子の生涯とその時代 (5) 政治観：「仁政」 (6) 法家思想と商君の改革 (7) 尚古の歴史観：「一治一乱」 (8) 性善説とその目的 (9) 荀子の生涯とその時代 (10) 性悪説とその目的 (11) 秦に対する評価と社会への視線 (12) 「天人之分」の内実 (13) 三才（天・地・人）の関係とそれを統べるもの (14) 漢代の儒家：儒家一尊の実態 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	赤塚忠編『思想史』中国文化叢書3 大修館書店1967年 赤塚忠編『思想概論』中国文化叢書2 大修館書店1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店1987年
成績評価の基準と方法	基準	儒家思想の基本的特徴と、孔子、孟子、荀子の思想の差異及びその原因を理解できていれば合格とする。
	方法	筆記試験 60% 出席態度 40%
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本の歴史	
担当者	梶尾 達哉 / TORAO, Tatsuya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	古代～近世の日本について、高校までの「日本史」では取り上げないいくつかのテーマを、学説・史料・資料を紹介しながら、考えていきます。高校の「日本史」未修者でも受講可です。
	到達目標	日本の国家の成立に関心を持ち、前近代の罪刑・性愛・習俗についての観念と現代との関係を説明できること。さまざまな史料・資料に親しみ、歴史学的な思考ができるようになること。
授業計画	(1) 騎馬民族征服説 I (2) 騎馬民族征服説 II (3) 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 I (4) 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 II (5) 古代の罪と罰 I (6) 古代の罪と罰 II (7) 古代の罪と罰 III (8) 中世の悪口 (9) 中世の絵巻物を読む I (10) 中世の絵巻物を読む II (11) 中世の絵巻物を読む III (12) 近世における主君押込 (13) 古代・中世・近世の古文書を読む I (14) 古代・中世・近世の古文書を読む II (15) 古代・中世・近世の古文書を読む II	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・受講後、毎回内容等を整理する。 ・質問等はいつでも受け付ける。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	参考書は講義中に必要に応じて知らせる。
成績評価の基準と方法	基準	講義の内容が理解された場合を合格とする。
	方法	受講態度 30%、試験 70%
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	アジアの歴史	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	唐代後半の政治史。唐帝国の崩壊の過程を、制度と出来事との相互関係として解説する。
	到達目標	唐代後半の政治史を理解する。 中国の君主政治の基本的な仕組みを把握する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国史の基礎知識 (2) 玄宗期の節度使と傭兵 (3) 安史の乱の経過 (4) 安史の乱の遺産 (5) 国家財政 — 塩税と羨余 (6) 白居易 — ある士大夫の官歴 (7) 軍人 1 — 節度使 (8) 軍人 2 — 傭兵 (9) 徳宗と建中の変 (10) 宦官 1 (11) 宦官 2 (12) 憲宗の功績と限界 (13) 大運河 — 帝国の生命線 (14) 三大反乱と自壊する帝国 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に取り上げた事件がどのような「仕組みと繋がり」に依っているかを再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	布目潮 = 『中国の歴史 4: 隋唐帝国』講談社 岡崎文夫 『隋唐帝国五代史』平凡社
成績評価の基準と方法	基準	授業で採り上げた主要な史実を「仕組みとつながり」の観点で説明できれば合格とする。
	方法	筆記試験 60% 出席態度 40%
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国の文化	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	わたしたちの日常生活慣習や行事には中国伝来のものが少なくない。中国の文化を学び、中国文化と日本文化の関連や相違に興味を抱き、日常生活慣習や行事を見つめなおす。
	到達目標	生活に深く関わっている中国の文化を学ぶことにより、中国文化と日本文化との関連を見出すことが目標である。
授業計画	(1) 繁体字と簡体字——漢字文化圏、鹿児島で見た繁体字と簡体字 (2) 繁体字と簡体字——簡体字の誕生 (3) 繁体字と簡体字——「国字」、中国語に採り入れられた日本語 (4) 文字の文化史——絵文字、甲骨文、金文 (5) 文字の文化史——篆書、木簡 (6) 文字の文化史——隸書、筆、印 (7) 文字の文化史——絹布、紙の出現、巻物 (8) 文字の文化史——楷書、折本、冊子本、ペン (9) 文字の文化史——印から印刷へ、石刻、木版印刷 (10) 文字の文化史——明朝体、活版印刷 (11) 暦と年中行事——十干十二支 (12) 暦と年中行事——二十四節気、古方位、古時刻 (13) 暦と年中行事——伝統的な年中行事1 (14) 暦と年中行事——伝統的な年中行事2 (15) 総復習	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を整理してプリントを完成させる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	藤枝晃『文字の文化史』岩波書店、1991年、ISBN4002600831
成績評価の基準と方法	基準	中国文化に関する知識を習得して、日本文化との関連や相違が理解できたものは合格とします。
	方法	受講態度(50%)、期末試験(50%)。受講態度には授業中に実施する小テストを含む。
備考	読書レポートを課す。定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験を受けることができない。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ヨーロッパの歴史	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	近代において国際社会の規範を形成したヨーロッパの近現代史を外観する。
	到達目標	近代において世界の諸地域に大きな影響を与えたヨーロッパの近現代史を理解することで、歴史的背景、とりわけヨーロッパと日本を含む非ヨーロッパ世界との歴史的関係を踏まえたうえで、現代社会について自分なりに考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーションーヨーロッパとは？ (2) 「文明国」とは？ー近代ヨーロッパと日本 (3) 近代世界システムと奴隷貿易 (4) 環大西洋革命（1）ー産業革命 (5) 環大西洋革命（2）ーアメリカの誕生とフランス革命 (6) 国民国家とは何か？ (7) 諸帝国の動揺ーオーストリア帝国とオスマン帝国 (8) 帝国主義の時代 (9) 「西洋の没落」ー第一次世界大戦 (10) ロシア革命とソ連の誕生 (11) 「危機の二十年」ーファシズムの台頭 (12) 第二次世界大戦とヨーロッパ分断 (13) 脱植民地化とヨーロッパ (14) ヨーロッパ統合への道 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回配布されたプリントと参考資料に目を通し、内容を確認しておくこと。 ・新聞の国際面のニュースを見ておくこと。
	事後学習	・授業中に配布したプリントを見直し、意味の分からないところは辞書や参考文献で調べたり、教員にきいたりして理解しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	ヨーロッパの近現代史に関する基本的事項が理解できており、文章で説明ができておれば合格とする。
	方法	期末に実施する試験 60%、受講態度を 40%とする。受講態度は時折実施する小テストの結果やアンケートなどの提出状況で評価する。
備考	読書課題の内容を試験での評価に加味する。詳細は第一回目の講義で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ことばの科学	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	現在、世界中には 6,000 以上の言語があると言われている。この授業では、日本語だけでなくさまざまな言語を取り上げ、ことばについてさまざまな観点から考えていく。
	到達目標	この授業を通して、日本語を含めた言語のしくみについて基礎的な知識を身につけるとともに、ことばの持つ面白さを発見できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション 言語学とは何か？ (2) 世界の言語と日本語 (3) 日本語の特徴 (1) (4) 日本語の特徴 (2) (5) 日本語の特徴 (3) (6) 日本語の特徴 (4) (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 (9) 日本語の方言 (1) (10) 日本語の方言 (2) (11) 鹿児島の方言 (12) 方言を調べる (13) 言語の死と危機言語 (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 危機方言と言語の再活性化	
自学自習	事前学習	ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。
	事後学習	小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	言語学の意義、内容が理解できていれば合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、期末試験の受験を認めない（追・再試験を受けることもできない）。
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本の文学	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	語り方に特徴のある小説をとりあげ、様々な要素を勘案しつつ丁寧に読解する。
	到達目標	小説に丁寧に向き合うことを通して、小説読解の基礎的な力を身につける。
授業計画	(1) イントロダクション 小説を読むということ (2) 志賀直哉「小僧の神様」①（文学理論の基礎を学ぶ—「作者の意図」「登場人物の気持ち」からの脱却） (3) 志賀直哉「小僧の神様」②（文学理論の基礎を学ぶ—二項対立ほか） (4) 志賀直哉「小僧の神様」③（文学理論の基礎を学ぶ—「語り手」という審級） (5) 志賀直哉「小僧の神様」④（文学理論の基礎を学ぶ—「テキスト」とは？） (6) 書評を書いてみる（※読書課題との連動） (7) 江戸川乱歩「二銭銅貨」①（ミステリの結末を予想するということ） (8) 江戸川乱歩「二銭銅貨」②（ジャンルとしてのミステリとその問題点） (9) 江戸川乱歩「二銭銅貨」③（テキスト内の要素を確認する） (10) 江戸川乱歩「二銭銅貨」④（テキストの語りとミステリ） (11) 芥川龍之介「藪の中」①（犯人さがしをめぐって） (12) 芥川龍之介「藪の中」②（「聞き手」の問題） (13) 芥川龍之介「藪の中」③（映画との比較） (14) 芥川龍之介「藪の中」④（古典（原典）との比較） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各授業終了時にコメントを記入し、提出。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	文学に対する理解、関心が深められれば合格とする。
	方法	学期末レポート 60%、受講態度 30%、授業終了時のコメント 10%、ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	異文化コミュニケーション	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	グローバル化に伴い国内外において文化背景の異なる人たちとの対面コミュニケーションが増えてきている。日本人が異文化の人たちとコミュニケーションをするとき遭遇しやすい問題点を、日本人のコミュニケーション行動の特殊性から概説する。
	到達目標	1. 異文化コミュニケーションを構成する項目が理解できるようになる。 2. 文化差により生じる言語・非言語コミュニケーションの違いが理解できるようになる。 3. コミュニケーションの失敗の積み重ねにより生じるカルチャー・ショックの諸相が理解できるようになる。 4. 上記 1～3 について外国人にインタビューしその実態が分析できるようになる。
授業計画	(1) 国内・海外における日本人の異文化コミュニケーションの現状と問題点 (2) 異文化コミュニケーションの背景 (3) 本学学生の異文化コミュニケーション体験を知る (4) 異文化コミュニケーションの領域 (5) 異文化コミュニケーションの領域 (6) 文化とコミュニケーション (7) 文化とコミュニケーション (8) 非言語コミュニケーション (9) 非言語コミュニケーション (10) 言語と文化的認識 (11) 言語と文化的認識 (12) 言語と文化的認識 (13) カルチャー・ショック (14) カルチャー・ショック (15) 異文化コミュニケーション実体験	
自学自習	事前学習	・教科書の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容を確実に理解するために、再度「教科書」「配付資料」「参考文献」を読み返すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション』1997年 丸善ライブラリー ISBN4-621-07047-9 C0280
	参考文献	原沢伊都夫『異文化理解入門』2013年 研究社 ISBN978-4-327-37734-2 C1036
成績評価の基準と方法	基準	講義内容を踏まえたレポートを作成し、かつ下記の方法により 60%以上達成した者を合格とする。
	方法	読書レポート (20 点) 毎回コメント (10 点) 前期末レポート (70 点)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	隼人学	
担当者	◎岩橋 恵子 / 小山 正俊 / 近藤 諭 / 永里 紘二	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	現地研修は、スクールバス・ツアーになります。	
科目概要	授業内容	隼人地域において守られ育まれてきた自然・社会・文化を、多角的かつ実践的な視点で知識を得ることによって、これからの地域の在り方を考える。今年度は、嘉例川・牧園・福山・垂水地区の地域産業に焦点をあてる。(なお、ここでいう隼人地域とは、平和で豊かな文化を育んでいた「隼人」と呼ばれる人々が暮らしていた南九州全体をさす広い意味で用いる)
	到達目標	身近な地域遺産を学ぶことで、地域そのもののもつ豊かさに気づくことができるようになる。 地域と産業の結びつきを理解し、地域課題とその解決について考えることができる。
授業計画	(1) 隼人学を学ぶにあたって (2) 地域や風土に根付いた食と農 (3) 農的生活から考える生活文化様式 (4) 合鴨農法は革命的農法 (5) 観光とまちづくり (6) 新しい観光の動向と可能性 (7) 現地研修(嘉例川・牧園) (8) 地域の恵みが持つポテンシャル(福山)1 (9) 地域の恵みが持つポテンシャル(福山)2 (10) 地域の恵みが持つポテンシャル(福山)3 (11) 親から子へ継承する起業 (12) 桜島の水が創り出す起業 (13) 地域産業～未来～向かって～ (14) 現地研修(福山・垂水) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	志學館大学生涯学習センター『農的生活のすすめ』南方新社、2007年 ほか適宜プリントを配布する。
	参考文献	志學館大学生涯学習センター・隼人町教育委員会編『隼人学ー地域遺産を未来につなぐー』南方新社、2004年
成績評価の基準と方法	基準	地域のもつ多様な豊かさと可能性を活かして創り出す産業のあり方への視座を獲得し表現できる。
	方法	授業中に課す小レポート50点、期末試験50点
備考	受講人数を50名に制限する。受講希望者は、学務課窓口での事前の履修申し込みが必要となる。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	恋愛論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko 他専任	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	当科目を発案したキャリア教育研究室「新科目プロジェクト」により運営される。	
科目概要	授業内容	思春期・青年期の重要な発達課題の1つとなりうる「恋愛」について、様々な専門領域からアプローチして考えることで視野を広げるとともに、人間と社会に対する関心を深め、豊かな教養を身に付ける一助とする。毎回講師の異なるオムニバス形式であり、授業の後半は各自が考察してグループで話し合い、報告する。当科目を発案したキャリア教育研究室により運営される。
	到達目標	①それぞれの学問分野や専門領域において、恋愛やそれにまつわる人間関係・生活関係についてどのような論じ方があるのかを理解する。 ②1つのテーマに関して多角的に考察する力を身に付ける。 ③学習援助者として配置されるキャリア教育ゼミの学生のサポートを受けながら発信力・傾聴力を高め、学科・学年を越えた交流やコミュニケーションを積極的に楽しむ姿勢を発揮できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) キャリア教育：キャリア形成における「愛」の役割 (3) キャリア教育研究室：グループ・ディスカッションの進め方 (4) 文学：平安時代の恋と結婚 (5) 心理学：心理学からみる恋愛 (6) 舞台舞踊：バレエで描かれる恋愛 (7) ドラマ・演劇：恋愛の演劇的視点 (8) 地元企業：国際派・女性社長が語る恋愛事件簿 (9) 刑法：男女間に起こった事件の顛末 (10) 色彩学：カラーで幸運を引き寄せる～恋愛編～ (11) 経営学：マネジメントから見た恋愛論—エロースとアガペー— (12) 民法：恋愛と結婚にまつわる法知識 (13) 行政・地域：「まちコン」の取り組み (14) 観光・まち歩き：地域資源となった歴史上のロマンス (15) グループ発表と総まとめ	
自学自習	事前学習	人生における恋愛の位置づけについて、様々なロールモデルや自己の体験をもとに考察しておくこと。
	事後学習	・それぞれの回の内容や資料を復習し、自分の考えを深めて言葉で表現できるようにしておくこと。 ・紹介された文献のうち、読書課題で使用するものを選び、読み進めておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント等を用いる。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回積極的に授業に参加し、話し合いやコメントシートで自分の考えを深め、各専門領域の特色を踏まえた上でレポートに適切にまとめられた場合に、合格とする。
	方法	参加態度 60%、コメントシート 15%、レポート 25%。
備考	レポート課題の一部に読書課題を含む。外部講師の関係で、授業の順番や内容が変更になることがある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	韓国 の 言語と文化	
担当者	有松 しづよ ・ 入佐 信宏	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 1 年次	
	◎本授業は「韓国文化研修旅行」を含みます。	
科目概要	授業内容	(1) 韓国ソウル・釜山の研修旅行 (2) 韓国の伝統文化体験 (3) 韓国の大学生との交流
	到達目標	(1) 簡単な韓国語でコミュニケーションができるようになる。 (2) 韓国の歴史・文化・言語に対する理解を深める。 (3) 韓国の大学生と交流し、積極的に他国の人々に関わろうとする姿勢を身につける。
授業計画	(1) 【事前指導】 (2) 第 1 回 (研修の概要) (3) 第 2 回 (韓国の文化) (4) 第 3 回 (簡単な会話練習) (5) 【韓国ソウル・釜山の研修旅行】 (6) 訪問先：韓国ソウル市、釜山市 (7) 日 時：2017 年 3 月 6 日 (月)～3 月 11 日 (土) 5 泊 6 日 (予定) (8) 内容 1：ソウル市、釜山市および近郊での研修旅行 (9) 内容 2：韓国の大学生との交流 (10) 内容 3：伝統文化体験 (11) 費用：約 10 万円 (旅費、宿泊費、食費、現地交通費、入場料) (12) ※費用は為替レートの変動により多少増減あり (13) ※個人的費用 (パスポート取得費用、海外旅行保険、お土産代等) は別途必要 (14) ・ (15) ・	
自学自習	事前学習	韓国の言語、文化、歴史、観光地等について調べておくこと。
	事後学習	研修の成果をレポートにまとめること。
使用教材・参考文献	使用教材	授業中に配布するプリントを使用する。
	参考文献	入佐信宏・金孝珍『これで話せる韓国語 STEP1』白帝社 2015 年
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とする。
	方法	事前指導での積極性(10 点)、文化研修での積極性(70 点)、レポート(20 点)で評価する。
備考	韓国語ができなくても参加は可能。事前指導には必ず参加すること。詳細は担当教員まで。教員が指示する『読書』課題の遂行を成績評価に加味する。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	実践日本語講座	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	さまざまな文表表現について学習するとともに、プレゼンテーション能力を養う。具体的には卒業論文や就職時に求められる文章表現及びプレゼンテーションの基礎力を習得するための授業を実施する。毎授業ごとに課題提出を求める。
	到達目標	多様な文章表現のなかから目的に応じた表現方法を選択し、文章やプレゼンテーションにて発表できる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 書き言葉と話し言葉 プレゼンテーションの基礎 (3) プレゼンテーションのための文章表現 1 (4) プレゼンテーション実践 1 (5) 選書と推薦文 (6) プレゼンテーション実践 2 (7) 文章要約と文章作成 1 (8) 文章要約と文章作成 2 (9) 文章要約と文章作成 3 (10) 文章要約と文章作成 4 (11) プレゼンテーション実践 3 (12) プレゼンテーション実践 4 (13) プレゼンテーション実践 5 (14) ビジネス文書（手紙、お礼状を含む） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	事前学習課題に取り組む
	事後学習	事後学習課題に取り組む
使用教材・参考文献	使用教材	オリジナルテキストを使用する。
	参考文献	随時紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	多様な文章表現の存在を自覚し、目的に応じた的確に使い分けることができる。
	方法	授業参加度 55 点 定期試験 45 点
備考	授業参加度評価中には読書課題の提出も含む	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル